

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320111

研究課題名（和文） 両大戦間期・第二次大戦期の中国における在華日本系企業についての総合的研究  
研究課題名（英文） A General study of Japanese Corporations in China, the Interwar and World War II period

研究代表者

富澤 芳亜（TOMIZAWA YOSHIA）

島根大学・教育学部・准教授

研究者番号：90284009

研究代表者の専門分野：東洋史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：国際研究者交流、現代史、近代史、経済史、企業史、中国：日本

### 1. 研究計画の概要

本研究は対象とする時期を、中国への日本系企業（在華日本企業の資本形態には、日本資本単独出資や日中合資など様々な形態があり、「日本系企業」の呼称を用いる）の進出の本格化した第一次世界大戦終結（1910年代末）から、第二次大戦敗戦による中断（1945年）までの期間とし、この間の中国における日本系企業の中国での活動を重工業、紡織などの軽工業、電力などのエネルギー産業、鉄道などの近代交通網の整備、中国への技術移転などの面を通じて多面的に明らかにすることを目的としている。

### 2. 研究の進捗状況

研究代表者および各研究分担者は、第一次大戦期から第二次大戦期までの日本経済史・中国経済史を、在華日本系企業との関連で読み直し、各分野での必要な情報の整理を行うために、継続的に研究会を開催した。また国内外の文書館において調査を行った。

#### 2007年度

6月10日に神戸大学、12月9日に大阪大学にて研究会を開催した。12月の研究会では南カリフォルニア大学のブレット・シーハン教授をゲストスピーカーに迎え、アメリカにおける研究情報の教示を受けた。

#### 2008年度

5月31日、6月1日に島根大学にて、8月2、3日に大阪大学にてワークショップを開催した。8月のワークショップでは海外研究協力者である台湾中央研究院の陳慈玉氏、上海社会科学院の張忠民氏、香港大学李培徳氏、台湾東海大学の陳計堯氏を招き、活発な議論

が行われた。

1970年代に研究分担者の桑原哲也が、在華日本紡織企業関係者に行った貴重なインタビューの文字資料化を開始し、2008年度にはおよそ50%の文字化を実現した。

#### 2009年度

これまでの研究成果の中間報告のために6月13、14日に東京大学にてワークショップを開催した。

そして、これまでの研究成果の総括として、9月27日に東洋大学で開催された社会経済史学会第78回全国大会において、パネルディスカッション「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」を富澤が組織し、富澤と桑原が報告、阿部がコメント、久保が司会を行った。翌28日には東京大学でシンポジウム「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」を開催し、分担者の久保と萩原及び海外研究協力者である台湾中央研究院の陳慈玉氏、上海社会科学院の張忠民氏、香港大学李培徳氏、台湾東海大学の陳計堯氏が報告を行った。双方とも多数の参加があり、活発な議論を行うことができた。こうした成果を公刊するための準備として、11月29日には、東京大学でワークショップを開催した。

在華日本紡織企業関係者のインタビューの文字資料化を進めており、およそ90%を終了した。

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

以下の理由が挙げられる

我々の研究グループと同様の問題関心を持つ柴田善雅『中国占領地日系企業の活動』日本経済評論社、2008年の刊行により、新たに史料目録を作成する必要がなくなり、その分の労力を様々な作業に振り向けることが可能となった。これにより①神戸大学の内外綿文書の整理、②在華紡関係者のインタビューの整理などを行うことができた。また当初の目標であった在華日系企業の多様性の解明も順調に進んでいる。

#### 4. 今後の研究の推進方策

- (1) 昨年度の社会経済史学会大会でのパネル報告および東京大でのシンポジウムを基礎に、分担者、連携研究者、研究協力者は成果公表にむけての論文を作成する。また、そのためのワークショップを東京などで開催する。
- (2) 論文集の公刊による成果公表を目指して、来年度の科学研究費補助金（研究成果公開促進費）に応募する。
- (3) 昨年度に引き続き、過去に実施した在華紡関係者へのインタビューを、研究代表者・分担者・連携研究者により整理を進め、これについても公刊にむけて積極的に補助金の獲得をはかる。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 30 件）

- ①富澤芳亜「1930年代的中国銀行與冀豫晋三省紡織工業的重組」張忠民、陸興龍、李一翔主編『近代中国社会環境与企業發展』上海社会科学院出版社、93-113頁、2008年、査読在り
- ②久保亨「關於企業管理公司的新思考」張忠民、陸興龍、李一翔主編『近代中国社会環境与企業發展』上海社会科学院出版社、5-10頁、2008年、査読在り
- ③久保亨「戦時重慶の綿紡織業と国民政府」『信大史学』第33号、2008年、20-39頁、査読在り
- ④桑原哲也「日本企業の国際経営に関する歴史的考察—両大戦間期、中国における内外綿会社—」『日本労働研究雑誌』No.262、17-29頁、2007年、査読有
- ⑤金丸裕一「日本占領地的<経済建設>-来自1910年代青島の啓示」『産業發展與社会変遷国際学術研討会論文』中央研究院台湾史研究所、2007年、415-431頁、査読在り

〔学会発表〕（計 16 件）

- ①久保亨「在華紡技術の評価と継承をめぐって」シンポジウム「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月28日、東京大学社会科学研究所

- ②萩原充「日中戦争期の大冶鉄鉱と漢冶萍公司」シンポジウム「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月28日、東京大学社会科学研究所

- ③富澤芳亜「戦時期、戦後における在華紡技術の移転の可能性」社会経済史学会第78回全国大会 パネルディスカッション「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月27日、東洋大学
- ④桑原哲也「内外綿の技術移転と労務管理の現地化」社会経済史学会第78回全国大会 パネルディスカッション「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月27日、東洋大学

- ⑤富澤芳亜「1920-30年代的廠家經營的紡織企業」、「中国企業史的新典範：概念與個案」国際学術討論会、2007年8月24日、中国復旦大学歴史系

〔図書〕（計 14 件）

- ①阿部武司・中村尚史編、ミネルヴァ書房『講座日本経営史 2 産業革命と企業経営』2010年、1-53、81-104頁
- ②加藤弘之、久保亨共著、岩波書店、『叢書・中国の問題群 ⑤ 進化する中国の資本主義』2009年、250頁
- ③飯島渉、久保亨、村田雄二郎共編、東京大学出版会、『シリーズ20世紀中国史 ③ グローバル化と中国』2009年、久保執筆部分1-12,207-227、富澤執筆部分145-165頁
- ④久保亨、土田哲夫、高田幸男、井上久士共著、東京大学出版会『現代中国の歴史—兩岸三地100年のあゆみ』2008年、288頁
- ⑤金丸裕一編、ゆまに書房、『近代中国と企業・文化・国家 立命館大学社会システム研究所叢書1』、2008年、550頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕